古賀駅周辺整備事業ワークショップ「わたしたちの古賀駅前をデザインしよう」資料３
実施報告(要約版)

第1回ワークショップ
西口駅前広場・自由通路橋を
「自分ならどう活用できるか」について

日時：3/28(土) 14:00-16:00
場所：リーパスプラザこが 302
参加者：19名

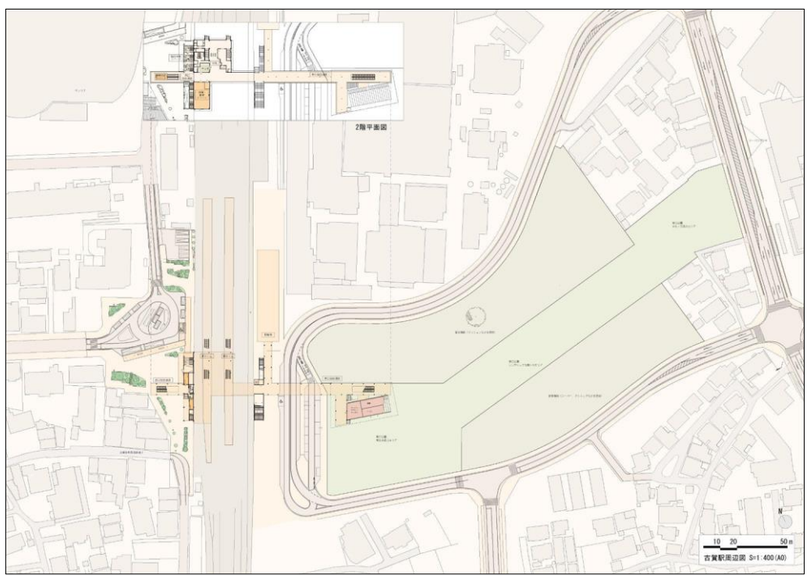




第2回ワークショップ
私たちが思う古賀の魅力と、これからの
駅の役割・私の考える自由通路橋、東口駅
前広場の理想像

日時：4/26(日) 14:00-16:00
場所：リーパスプラザこが 中会議室
参加者：29名

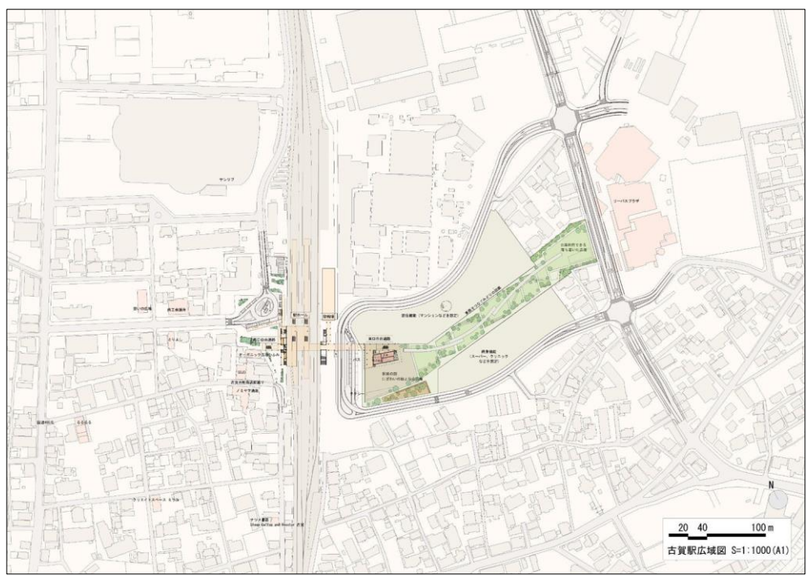




第3回ワークショップ
＋古賀駅周辺シンポジウム
これまでのおさらいと、
西口東口の一体利用・住み分けについて

日時：5/24(日) 14:00-15:00、15:30-17:00
場所：リーパスプラザこが 中会議室
参加者：18名





第1回ワークショップのまとめ

【1階・地上エリアのアイデア】

東西の明確なコンセプト分け
・西口は食や文化芸術の拠点「シーサイド」、東口は歩くことや子育ての拠点「マウントサイド」として、エリアごとの特色を明確にする。

イベントの拠点となる「大きい広場」
・週末マーケット、音楽フェス、屋台などが頻繁に開催される活発な場とし、災害時にも強い広場にする。

日常使いできる「小さい広場」と「植栽エリア」
・普段から居心地良く過ごせ、子どもが遊べるスペースや、古賀ゆかりの木（松など）を植えた緑と水のオアシスを設ける。

雨を避けられる「デッキ下」の有効活用
・屋根のある空間を活かし、ストリートピアノ、コミュニティFM、農作物販売のステージとして活用する。

交通整理と周辺との連携
・歩行者と自転車の動線を分け、サンリブ等の周辺駐車場と連携。高齢者やベビーカーでも東西をスムーズに行き来できるようにする。

景観の可視化と街との相乗効果
・夕日のマジックアワーや山への繋がりを意識したデザインを取り入れ、西口商店街へ自然と足を運びたくなる仕掛けや、周辺の通りへのネーミングを行う。

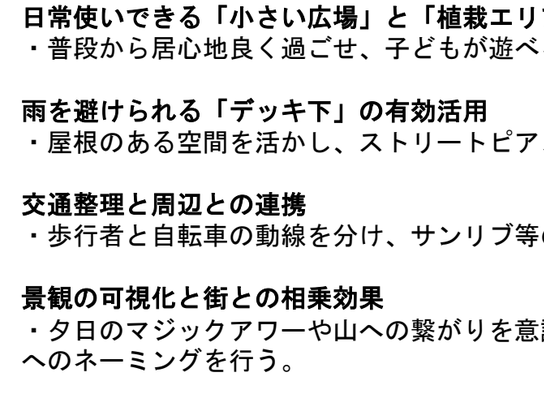
【2階・デッキエリアのアイデア】

観客席のような「2階デッキ」
・デッキから夕日や地域の活動を見下ろせたり、花火やスポーツのパブリックビューイングができる特等席にする。

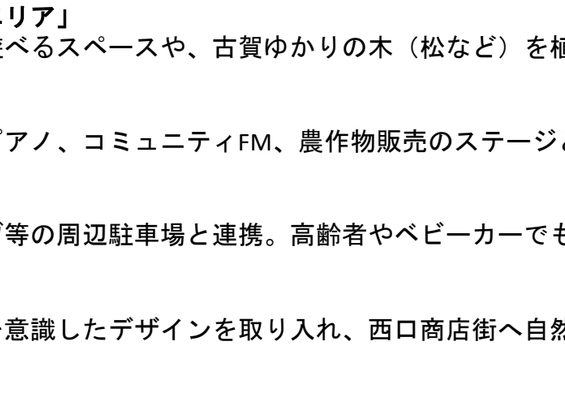
出店しやすい「チャレンジスペース」
・階段付近や2階デッキに出店料を抑えた簡易的な出店スペースを作り、地元企業や個人のチャレンジスペース（飲食・物販など）にする。

自由通路脇の「情報発信・テナント」
・2階の通路脇スペースを拡大し、お土産屋さんやテナントを設置。休日も平日も人が集まる情報発信の場とする。

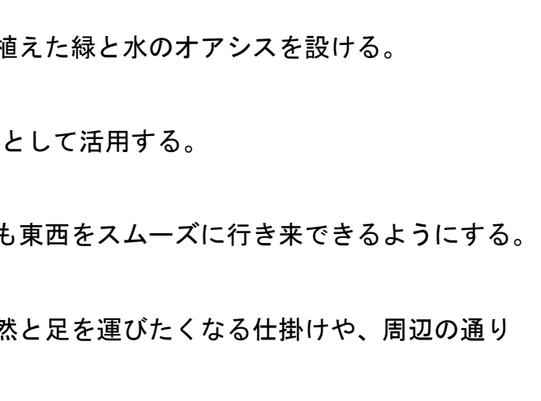
東口（リーパス）へのスムーズな接続
・自由通路から東口の生涯学習施設（リーパスプラザ）へ向けて、展示や動線が自然に連続していくような繋がりを持たせる。



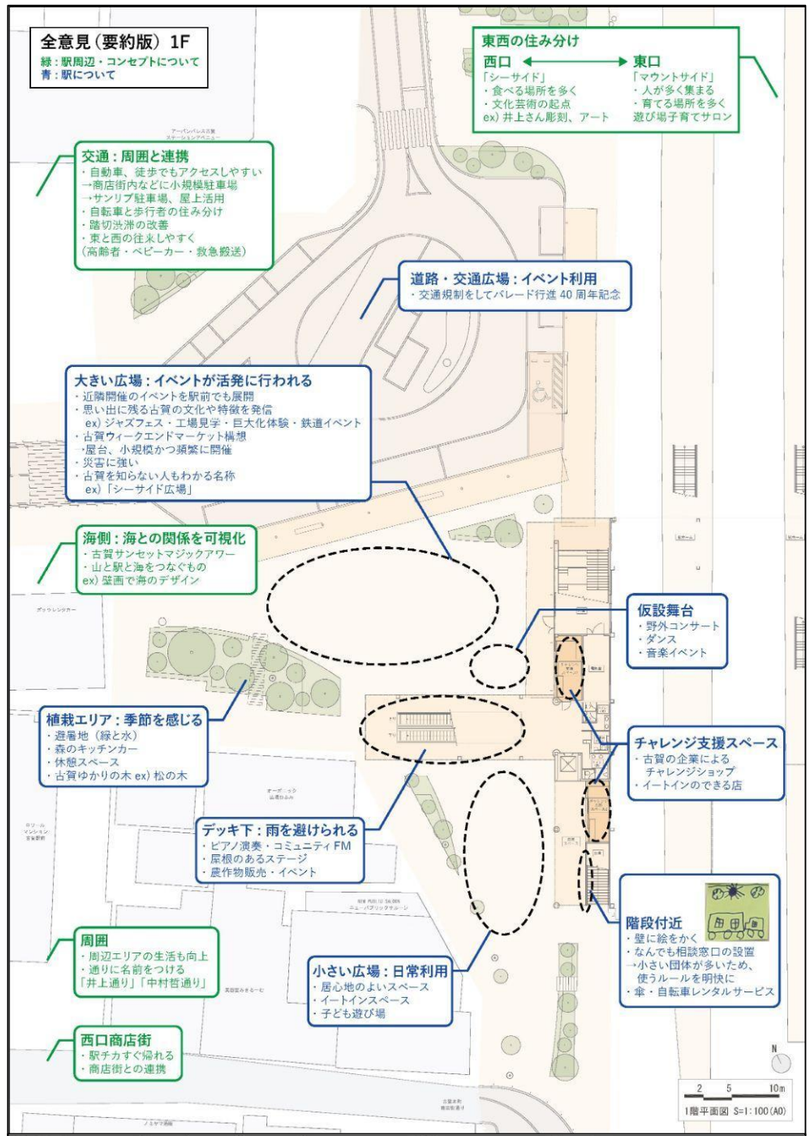
市長による挨拶



ワークショップ参加者と共に意見を発表



終了後の記念撮影



第2回ワークショップのまとめ

【広域（まち全体）の視点：海・山・周辺スポットとの連携】

海と山を繋ぐ風景の軸と、周辺へのハブ機能
・西の「海と夕日」から東の「山の緑と月」へ抜ける風景を視覚的に繋ぎつつ、温泉や古民家など駅から離れた魅力スポットへ周遊する拠点とする。

古賀らしさ（食と産業）の積極的な発信
・工業団地や食品工場の多さを活かし、駅前でアウトレット販売や食の祭典などを開催して市内の魅力をアピールする。

「ほどよく田舎で住みやすい」環境の体現
・交通の利便性（ICや鉄道）を活かしつつ、自然が身近にある古賀特有の暮らしやすさを駅前空間全体で表現する。

【駅周辺（空間）の視点：多様な居場所とアクティビティ】

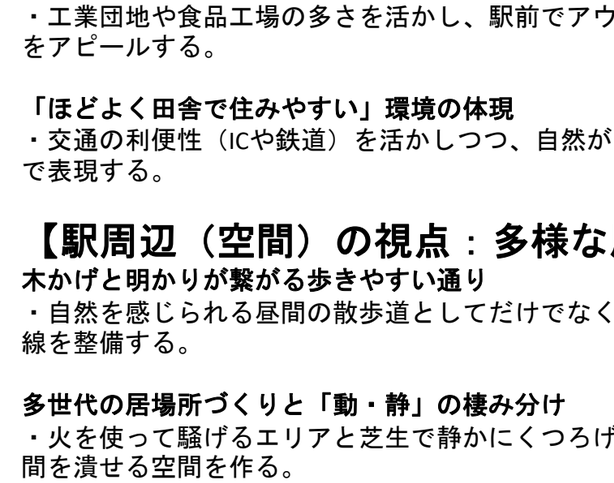
木かげと明かりが繋がる歩きやすい通り
・自然を感じられる昼間の散歩道としてだけでなく、夜も安心して歩けるよう「明かり」が連続する動線を整備する。

多世代の居場所づくりと「動・静」の棲み分け
・火を使って騒げるエリアと芝生で静かにくつろげる場所を共存させ、子どもから大人まで各世代が時間を潰せる空間を作る。

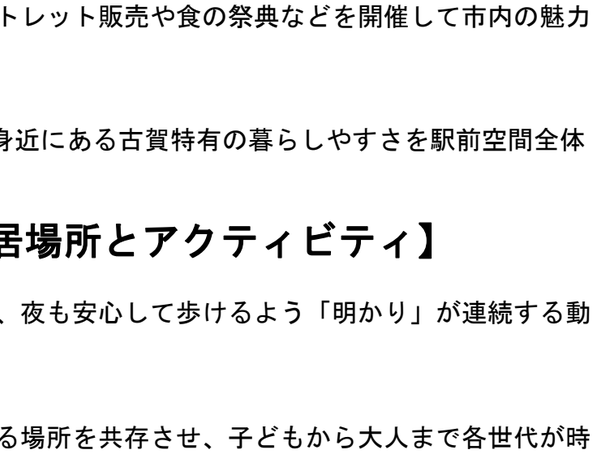
リーパスプラザ（生涯学習施設）との相乗効果
・施設内での学びや体験が屋外へと波及し、外での読書や周辺店舗への来店に自然と繋がる回遊性を生み出す。

自由通路を「情報発信のきっかけ」の空間に
・2階の通路を単なる移動空間にせず、古賀のスポット情報やリーパスプラザの活動をPRするスペースとして活用する。

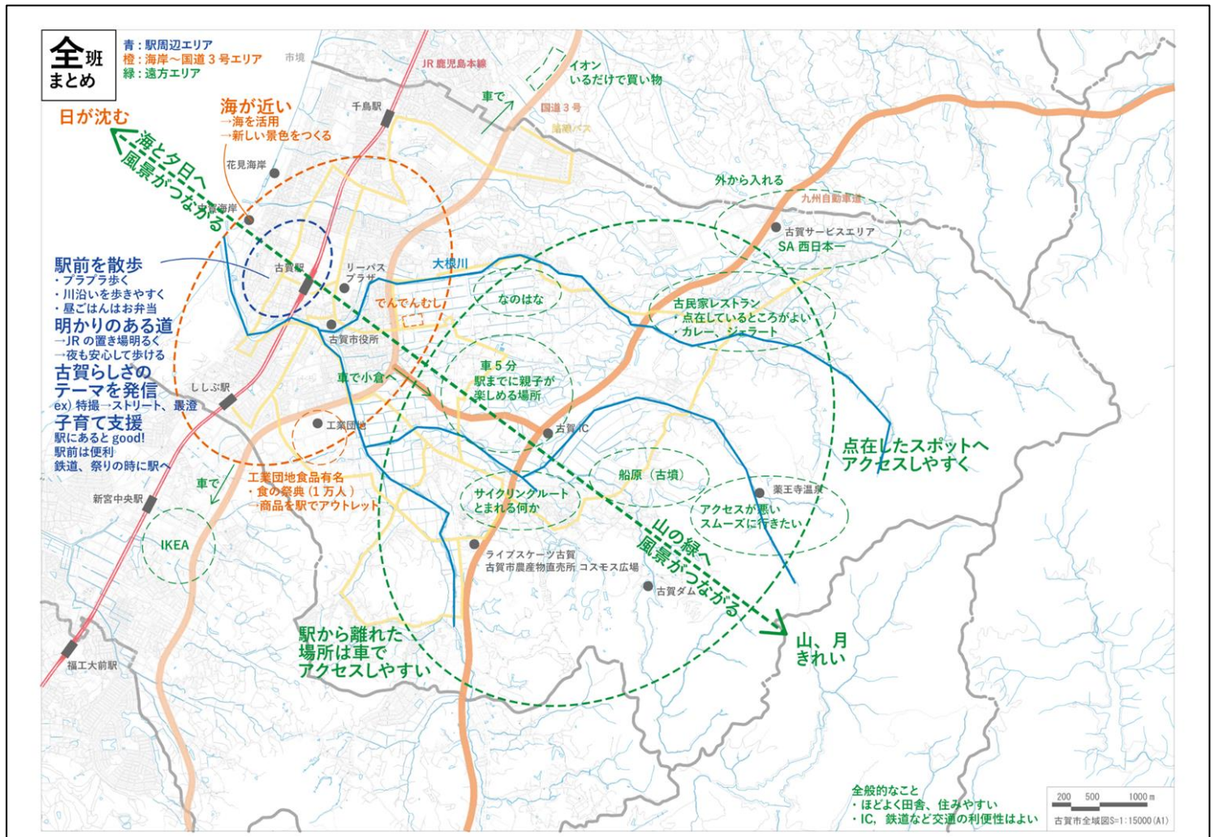
屋外での滞在を後押しするインフラ設備の充実
・外での飲食や仕事、イベントが快適に行えるよう、手洗い場、Wi-Fi、コンセントなどの細やかな設備を整える。

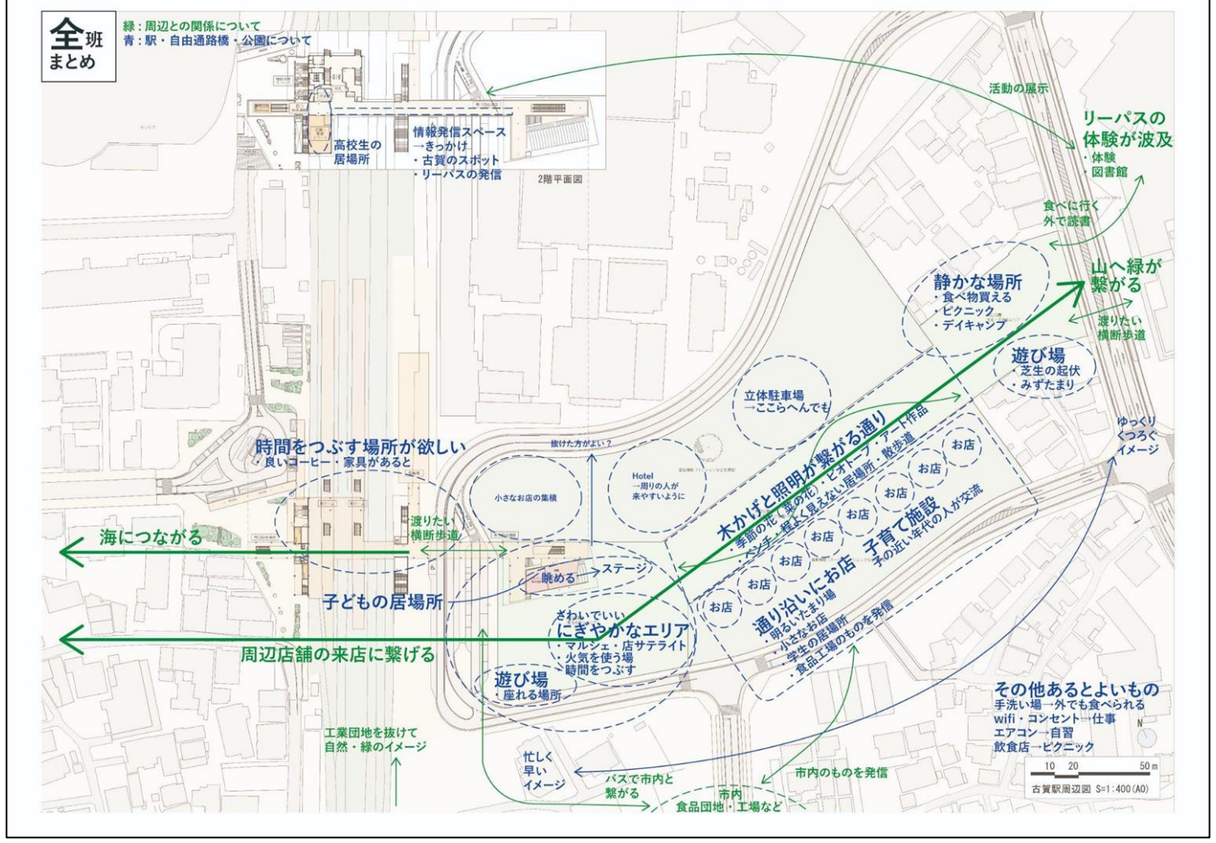


広域の視点について出た意見を発表



駅周辺の視点について出た意見を発表





第3回ワークショップのまとめ

【駅周辺の将来像】

古賀の「顔」となるインパクトと発信力
・電車からも見える「古賀の顔」として、アートやご当地コンテンツ（巨大化スポット等）を発信。
・観光資源として外から気を引く空間にする。

明確な目的を持った「駐車場」の確保
・駅周辺の商店利用、買い物、送迎、JR利用などを目的とした、実用的な駐車場が駅近くに欲しい。

「体験の連鎖」と「同時発生」を生む仕掛け
・西口の個人商店での個展やイベント、東口のサテライトショップなどが連携。
・駅の東西で同時に多様な体験が生まれる仕組みが大事。

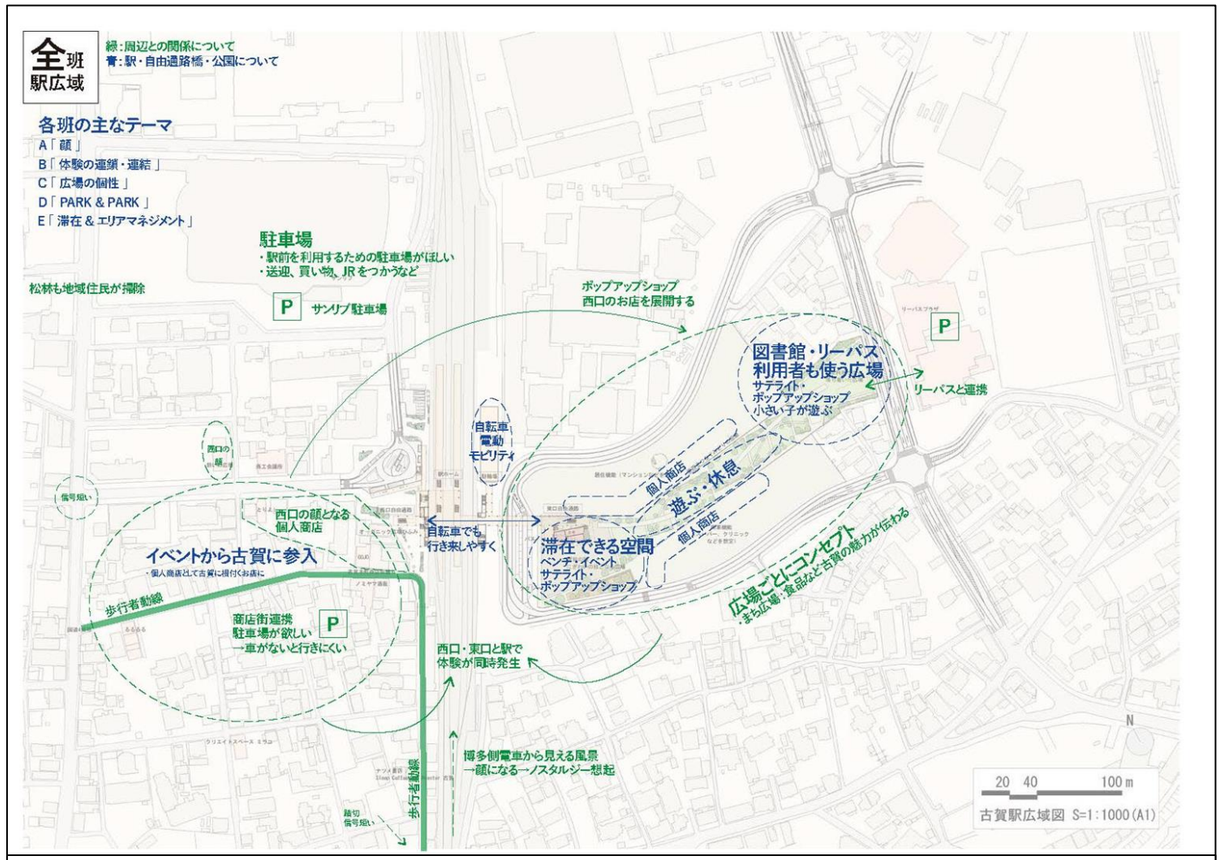
多世代が無料で「滞在・くつろげる」空間
・電車やバスの待ち時間を豊かにするベンチや地元カフェ（コーヒーやスイーツ）の提供のほか、高校生が無料で使える広めのスペース、小さい子が遊べる図書館などを設ける。

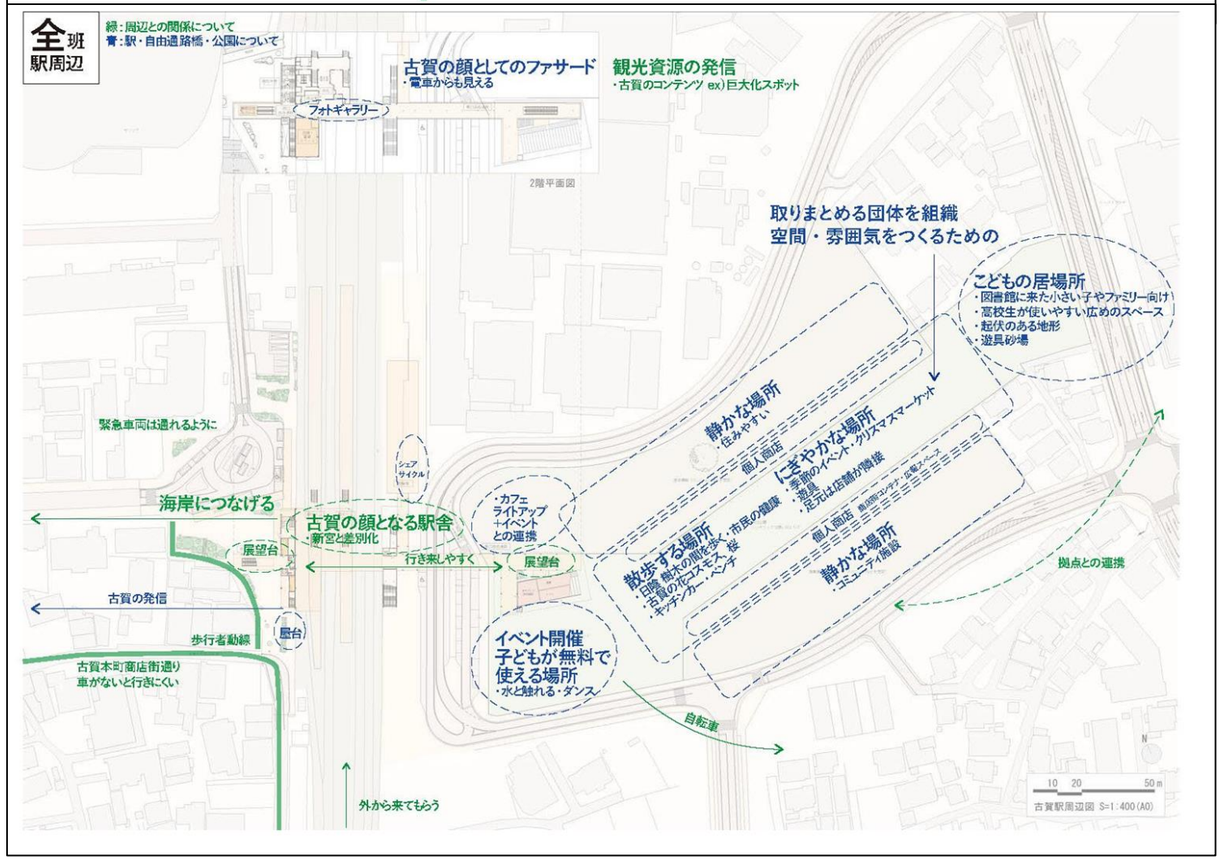
市民の健康と癒やしを支える「歩きたくなる道」
・にぎやかな店舗やキッチンカーのエリアと、緑の木陰がある静かなエリアを両立させる。
・健康器具や遊具を配置した散歩道（癒やしの空間）を期待。

若者のアクティビティと多様なイベントの受け皿
・水と触れ合える場所や、高校生のダンス、若者のパルクールなどができるスペースがあると良い。
・ライトアップ等のイベントとも連携させる。

海と山を感じられる景観の接続
・海岸へと視線や動線をつなげる展望台（フォトギャラリー）。
・山側広場を設け、古賀の自然環境へのアクセスと魅力を高める。

新旧が交差する景観とインフラの最適化
・博多側の電車から見える風景のノスタルジーを活かす。
・緊急車両の通行帯確保や、シェアサイクル・電動モビリティ等の新しい移動手段に対応したい。





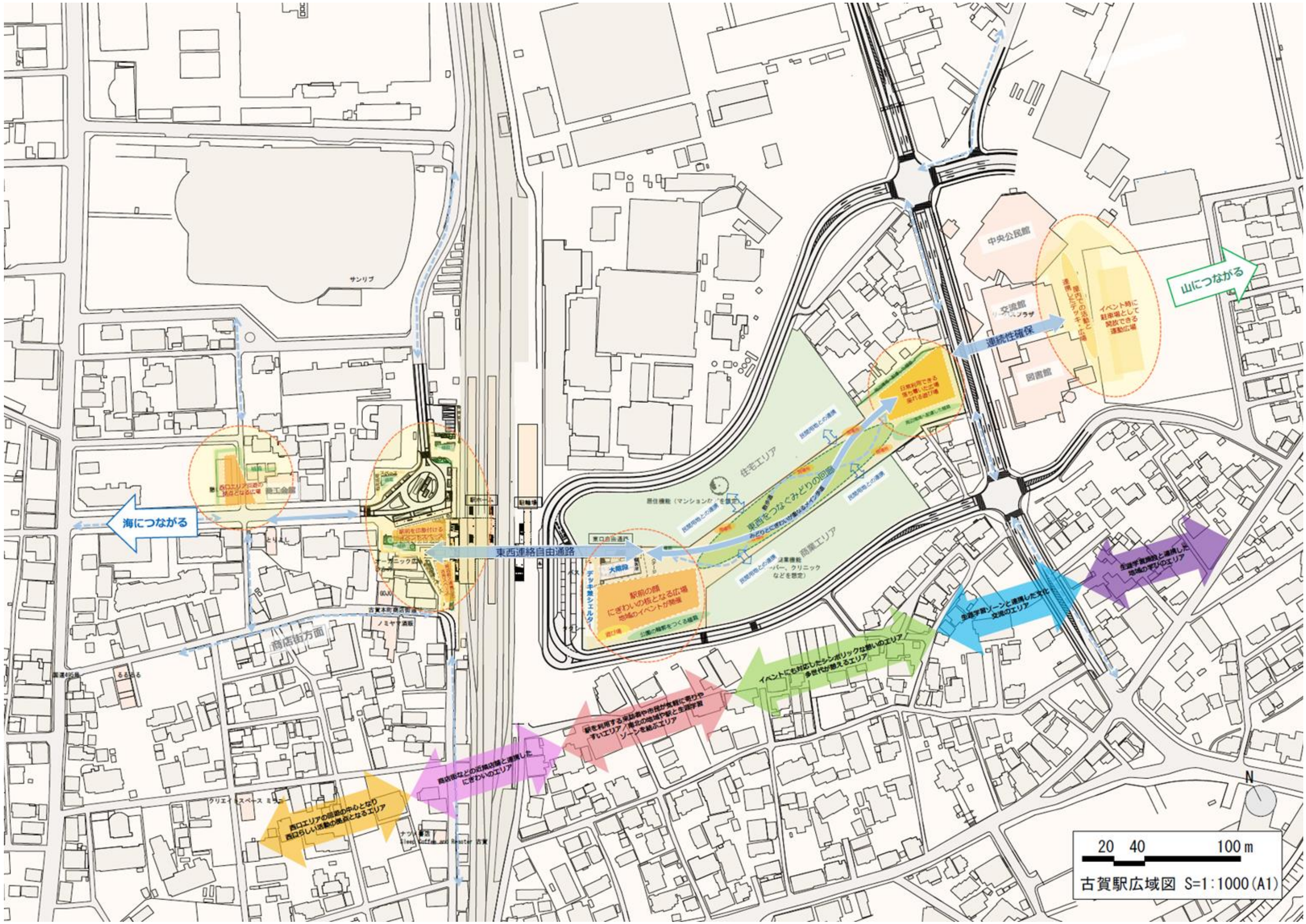


第2回WSの意見を踏まえたテストプランを説明



各班で出た意見や、各班の主なテーマを発表

ワークショップの意見を踏まえたゾーニング案



シンポジウム

第一部｜古賀駅周辺ワークショップの概要
第二部｜ワークショップ参加者の声

A氏
・大学の卒業設計で古賀駅前の再開発をテーマにした経験があり、25年前から駅前のあり方を考えている。
・これからのまちづくりには、昔からの商店街や地場の業者を巻き込み、**一緒に仕事を回していける関係性**が重要。
・古賀駅は**海や山、福岡市や北九州市を「繋ぐ役割」**を持ち、時間がある時に**歩いて楽しめる場所**にしていきたい。

B氏
・10〜15年後という未来を想像し、将来**孫が生まれた際の視点**で駅前の使い方を考えた。
・帰省した家族を駅に迎えに行き、そのまま駅前の公園やイベントで一緒に遊べるような空間になってほしい。
・自身が高齢になった時のことを考慮し、**暑さ対策がされた過ごしやすい場所**であることも大事。

C氏
・移住者の視点から、古賀にある「大根川」の伝説など独自のストーリーを活かした名物作りを提案したい。
・**「大根祭り」のような四季を通じたお祭り**を駅前で開催し、市外からも人が遊びに来るスポットにしたい。
・**自らがイベントを企画したり出店**したりするなど、**主体的に関わっていきたい。**

D氏
・AIやロボットが当たり前になる時代に、それらがスムーズに空間に馴染むような駅前になってほしい。
・空き時間を利用して、手間なくすぐに出店できる仕組みがあると面白い。
・現状の古賀駅周辺には電源がありパソコン作業や打ち合わせができる場所が少ないため**ワークスペースが必要。**

E氏
・駅から離れた山側に引越した経験から、**住むエリアによって駅前に求める機能や感覚が違う**ことに気づいた。
・ただ完成するのを待つのではなく、**計画の進捗状況などを継続的に情報発信**し、より多くの人に来てもらいたい。

第三部｜専門家ディスカッション「古賀駅の将来像」

田辺一城｜古賀市長
柴田　久｜福岡大学 教授
星野裕司｜熊本大学 教授
藤村龍至｜東京藝術大学 准教授
八木弘毅｜日建設計 公共空間デザイン部長

「小さなゴール」の積み重ね
・10〜15年後の完成を待つだけでなく、過程でも市民と共に「小さなゴール」を積み重ねていくことが重要。

空間（お皿）と活動（料理）
・公共空間のデザインは「市民の活動（料理）を盛りたくなる空間（お皿）を作る仕事」に例えられる。
・民間の主体的な動きを見極めながら行政が投資していくアプローチへと変化している。

「公民連携」が不可欠
・社会課題が複雑化し、行政の力だけでは解決できない時代になっている。
・市民や企業が自らアイデアを行動に移す「公民連携」がまちづくりの大前提である。

まちづくりのポイント「NHK」
・地方都市のまちづくりにおいては、**「日常性・波及性・継続性（NHK）」**の視点が不可欠である。

車社会との折り合い（駐車場問題）
・**「歩いて楽しめる街」**をめざす中で、駅前の貴重な空間を平面駐車場にしてしまってよいのかという問題提起。
・**車社会とのバランスについて市民と前提を共有**していく必要がある。



市長挨拶



ワークショップ参加者との議論



終了後の記念撮影　第二部・第三部登壇者の方々